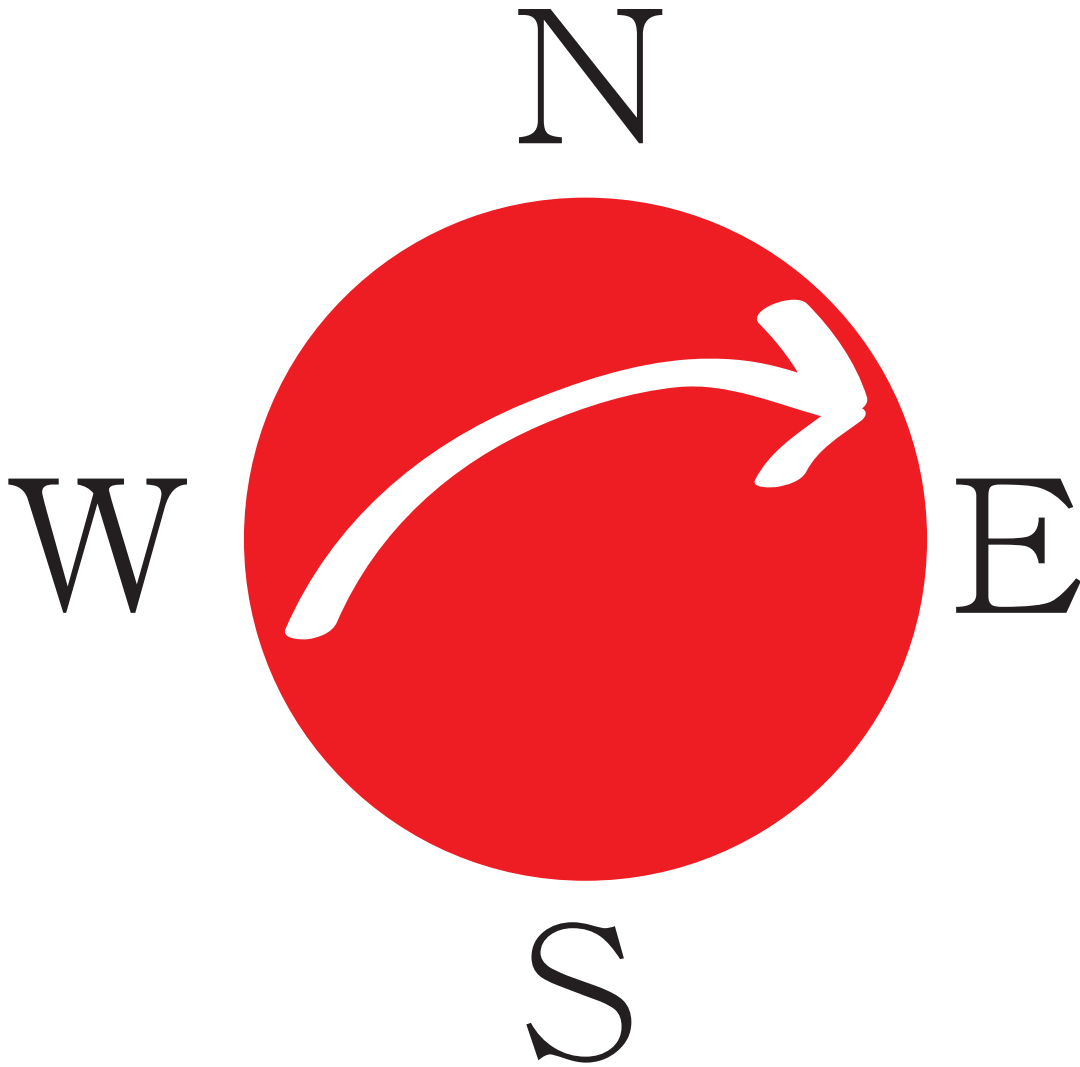


東北の地で被災された方々へ、関西からのメッセージ

ささえよう日本

関西からできること



十六年前、わたしたちは阪神・淡路大地震に襲われました。多くの家族や親しい友人・知人を失い、家も失い、茫然と立ちつくし、打ちのめされ、もはや立ち直れないかとおもわれました。それほど凄まじい災難でした。

そのとき、全国から、いたわりと応援の声をいっぱいいただきました。多くの人が救援に駆けつけてくれました。見守ってくれている人がいるという確かな感覚が、わたしたち関西人を支えました。そのおかげで、わたしたちはやがて笑顔を、そして元氣を取り戻しました。関西人得意の「泣き笑い」もたっぷりまじえて、です。

東北の地はこのたび、阪神・淡路大震災をさらに上回る甚大な被害に見舞われました。こんどはわたしたちが声を送り、恩返しをする番です。この国の東北に、わたしたちは確かな支えの心を届けたいと思っています。

いま、わたしたちはそれぞれの場所から、物資と義援金を集め、途切れることなく被災地へ送り、急務のスタッフを派遣し、被災者の受け入れ体制を整え、やがて被災地から声がかかるための、ボランティアの組織づくりに全力を尽くしています。これをもっともっと力強くしたい。

この国の東半分が苦しみ、うちひしがれているとき、この国の西半分がしっかりこの国を支えてゆかねばなりません。西から東へ、精一杯の力を送らねばなりません。そのために、さまざまな活動の「自粛」というより、むしろ普段の倍、がんばろうと思います。

居ても立ってもいられず、「おせっかい」を承知の上ですが、関西で文化活動・教育研究・経済活動に従事している者が、協働して、その結び役の一つを務めさせていただきます。東北の復興は途方もなく長い道のりになるでしょうが、復興のその日まで、わたしたち関西人にできるあらゆる支援を続けるつもりです。そしてそれと同時に、民間の知恵を集め、この国のどこかが危機に瀕したときにはまわりのどこかがしっかり支える、そんなたくましい国と社会のあり方について、さまざまな提案をしてゆきます。

【呼びかけ人】

- 綾辻 行人（作家）
- 有栖川有栖（作家）
- 安藤 忠雄（建築家）
- 五百旗頭真（政治学者・防衛大学校長）
- 池坊 専永（華道家元）
- 市田ひろみ（服飾研究家）
- 井上八千代（京舞井上流家元）
- 猪木 武徳（経済学者・国際日本文化研究センター長）
- 梅原 猛（哲学者）
- 鳳 蘭（女優）
- 大森 一樹（映画監督・大阪芸術大学教授）
- 岡田 節人（生物学者）
- 片岡仁左衛門（歌舞伎俳優）
- 桂 三枝（落語家）
- 玄月（作家）
- コシノヒロコ（ファッションデザイナー）
- 後藤 正治（作家）
- 金剛 永謹（能楽金剛流宗家）
- 堺屋 太一（作家・経済評論家）
- 坂田藤十郎（歌舞伎俳優）
- 佐渡 裕（指揮者）
- 茂山七五三（狂言師）
- 千 玄室（茶道裏千家大宗匠）
- 高村 薫（作家）
- 田辺 聖子（作家）
- 玉岡かおる（作家）
- 中西 進（国文学者）
- 中西 寛（政治学者・京都大学教授）
- 中野 良子（女優）
- 野依 良治（化学者・理化学研究所理事長）
- 平尾 誠二（神戸製鋼コベルコスティーラズ総監督）
- 平田オリザ（劇作家・大阪大学教授）
- 藤本 義一（作家）
- 眉村 卓（作家）
- 道浦母都子（歌人）
- もず 唱平（作詞家）
- 元永 定正（画家）
- 山折 哲雄（宗教学者）
- 山崎 正和（劇作家・評論家）
- 山中 伸弥（医学者・京都大学教授）
- 吉田 簀助（人形浄瑠璃文楽人形遣い）
- 樂吉左衛門（陶芸家）
- 若一 光司（作家）
- 脇田 修・晴子（歴史学者）
- 松本 紘（宇宙科学者・京都大学総長）
- 鷲田 清一（哲学者・大阪大学総長）
- 福田 秀樹（工学者・神戸大学学長）
- 下妻 博（関西経済連合会会長）
- 山中 諄（関西経済同友会代表幹事）
- 大竹 伸一（関西経済同友会代表幹事）
- 立石 義雄（京都商工会議所会頭）
- 佐藤 茂雄（大阪商工会議所会頭）
- 大橋 忠晴（神戸商工会議所会頭）

（平成二十三年四月六日時点）